

第2回 江別市行政審議会専門部会（第1部会） 議事録

日 時：令和5年2月22日（水） 午後6時～午後7時30分

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：明神委員、井上委員、春日委員、齋藤委員、清水委員、星委員、町村委員、小野秀司委員 計8名

欠席者：山崎委員、本山委員 計2名

事務局：川上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口参事（総合計画・総合戦略担当）、北島主査（総合計画・総合戦略担当）、眞鍋主査（総合計画・総合戦略担当）

傍聴者：1名

1 開会

（明神部会長）

ただいまから、第2回江別市行政審議会専門部会第1部会を開会いたします。

なお、本日、山崎委員、本山委員から欠席のご連絡を、齋藤委員から遅れる旨のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

議事に入る前に、本日の審議会に傍聴希望者がいらっしゃいます。発言権はなく、傍聴のみということで入室を許可したいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、傍聴を許可いたします。傍聴者の入室をお願いします。

（傍聴者入室）

2 報告事項

（明神部会長）

それでは、議事に入ります。

次第2の報告事項、（1）第2部会における審議状況についてを議題とします。

前回の第1部会が開催された日の翌日には、第2部会が開催されておりますので、事務局から、第2部会の審議状況について報告願います。

（事務局）

私から、第2部会における審議状況について、ご報告申し上げます。

資料1をご覧ください。

本部会の第1回目の翌日に開催された第2部会での審議状況であります。各委員から多くの意見をいただいております。そのうち、資料に記載の6項目については、市において確認・検討を要する意見と位置付け、現在、作業中であります。

なお、意見の概要をご紹介しますと、ナンバー1では、高齢者福祉の充実において、今後、より一層、介護サービスの安定供給が必要になる観点から、介護を要する状態になっても、充実した介護サービスの提供に努める旨の記載についての意見があったほか、ナンバー2及び3では、教育に関する「政策展開の方向性」において、学校と地域との連携

を進める記載を行うことについての意見や、ナンバー4では、教育において、SDGsの取組を行うことについての意見、また、ナンバー5では、文化財や歴史遺産の保存と継承に加え、情報発信を行い、魅力を知ってもらう機会を提供することについての意見がありました。

最後に、ナンバー6であります。協働のまちづくりの推進の全般に関して、自治基本条例や協働を気軽に感じられるような表現についての意見がありました。

なお、これらの意見は、現在、担当部局に確認しながら調整しているところであり、このほかにも多くのご意見をいただき、次回の全体会において、第2部会から報告が行われる予定であります。

以上でございます。

(明神部会長)

事務局から報告いただきましたが、委員の皆様から質問などはございませんか。

(質問なし)

それでは、第2部会の議事録ができ次第、各委員に送付願います。

3 審議事項

(1) 第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案について

(明神部会長)

次に、次第3の審議事項、(1)第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案についてを議題とします。

本件については、前回の審議において、皆様から多くのご意見をいただいたところでございます。

本日は、はじめに、各委員からのご意見に対する市の検討結果について、報告を受けたいと思います。

次に、皆様からいただいた、そのほかの貴重なご意見については、今後、市長に答申する際に意見を付けることになるとお思いますので、その材料となるよう、各委員の発言内容と趣旨をお示ししたいと考えております。

そして、その内容を皆様にご確認いただき、第1部会の審議結果として、次回の全体会で報告したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、まず、事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

私から、第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案についてご説明申し上げます。

資料2をご覧ください。

この資料は、前回の第1部会において、委員の皆様からいただいたご意見をまとめた資料ですが、1ページは、いただいたご意見のうち、市において確認・検討が必要なご意見と、その検討結果を示したものであり、2ページ以降は、変更は要しないものの、これからの総合計画の期間において、留意すべき事項や、検討すべき事項としてまとめたものであります。

また、2ページ以降のご意見であります。今後、最終的な手続きとして、行政審議会の審議結果を答申いただくこととなりますことから、答申に付する意見の材料として活用することができるよう、部会長に相談しながら、委員の意見を、意見の趣旨としてまとめております。

なお、左から2列目には、それぞれのご意見について、資料3における対応ページを記

載しております。

それでは、1ページから順に説明してまいります。

はじめに、ナンバー1とナンバー2であります。総合計画の目的は、市民の幸せを実現するためのものであり、これを実現するためのまちづくり政策との関わりについて、視覚的に表現してはどうかとのご意見であります。

そして、市の検討結果であります。まちづくりの基本的な考えには、市民とともに取り組む協働の理念があり、これに基づいて策定する総合計画の「めざすまちの姿」や、「まちづくり政策」によって、まちづくりの方向性を示すものであります。

このように、あらゆる取組は一体的に進めていくことから、それぞれが深く関わり、連携しながら進めていくことについて、今後作成する総合計画の冊子では、デザインを工夫しながら、表現することといたします。

次に、ナンバー3であります。政策01の自然・環境に関して、江別市の魅力を広く伝える観点から、江別市特有の地域資源の名称を、まちづくり政策に記載してはどうかとのご意見であります。

そして、市の検討結果であります。これまでもご説明申し上げておりますとおり、江別市の強みや特徴をPRすることは重要だと認識しておりますことから、総合計画の冊子に掲載予定の「江別市の概要」や「あゆみ」をはじめ、江別市の現状を紹介する中で示すことといたします。

次に、ナンバー4であります。政策01の自然・環境に関して、江別市はフードロスや食物残さの減少にも取り組んでいることから、まちづくり政策に文言として記載してはどうかとのご意見であります。

そして、市の検討結果であります。担当部局と協議の結果、ご意見の趣旨を踏まえて、まちづくり政策に反映することといたしました。

なお、ここで、資料3をご覧くださいと思いますが、ただいまのご意見は、2ページの①ごみの減量化と適正な処理の推進の中で、朱書き下線部分のとおり、「食品ロスの削減を推進するなど、」を加えることといたしました。

資料2の1ページにお戻りいただきたいと思いますが、次のナンバー5では、政策04の安全・安心に関して、江別市には、北海道消防学校があることから、地域資源の一つとして、防災の分野でもっと連携しても良いのではないかとのご意見であります。

そして、市の確認結果であります。担当部局等に確認したところ、防災の分野では、訓練やイベントなどにおいて、特段の連携はありませんが、江別市消防では、訓練時に施設を借用するなどの連携を図っているとのこととあります。

なお、市は、北海道消防学校を災害時の指定避難所のほか、物資拠点としていることから、今後も災害時における連携を図っていきたいと考えているとのこととありました。

次に、ナンバー6であります。政策05の都市生活に関して、江別市の道路交通網は、既に充実していることから、その旨を記載してはどうかとのご意見であります。

そして、市の検討結果であります。江別市の強みや特徴をPRすることは重要だと認識しているため、総合計画の冊子に掲載予定の「江別市の概要」や「あゆみ」をはじめ、江別市の現状を紹介する中で示すことといたします。

資料2ページをご覧ください。

なお、ここからは、次期の総合計画の期間において、留意すべき事項や、検討すべき事項についてのご意見をまとめたものであります。

冒頭でも申し上げましたが、これらの意見は、今後、答申を行う際に付する意見の材料として活用できるよう、意見の趣旨として取りまとめ、お示しするものであります。

それでは、こちら順に説明してまいります。

はじめに、ナンバー1から3までであります。これらは、それぞれ明神部会長、井上委員、齋藤委員からいただいたご意見であります。

各委員からの意見の趣旨は、市民の幸せを実現するために、九つのまちづくり政策を進

めることになるため、それぞれのまちづくり政策との関連性を分かりやすく表現されたいとまとめております。

なお、この意見であります、1ページのナンバー1と2でも同様の意見としてまとめており、市の検討結果として、工夫して表現する旨の検討結果をお示ししたところであります。

次に、ナンバー4と5であります、これらは、それぞれ星委員、本山委員からいただいたご意見であります。

各委員からの意見の趣旨は、「脱炭素社会の実現」について、一人ひとりが正しい知識を身につけ、できることから実践することが重要であるため、地球環境にやさしい取組などの情報提供や、市民参加による議論の機会を提供されたいとまとめております。

次に、ナンバー6であります、こちらは、山崎委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「脱炭素社会の実現」について、今後、高齢化がさらに進むことによって生じる課題と関連付け、自然環境にやさしい交通手段の研究など、先進的な取組を検討されたいとまとめております。

資料3ページをご覧ください。

次に、ナンバー7であります、こちらは、明神部会長からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「水と緑の保全」について、江別市には野幌森林公園などの豊かな自然があることから、多くの方に利用され、自然を守り生かしていく機運が醸成されるよう、市内外への積極的な情報発信に努められたいとまとめております。

次に、ナンバー8であります、こちらは、春日委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「再生可能エネルギーの導入拡大と利用推進」について、江別市に適した再生可能エネルギーを導入するための議論が重要であり、大規模な太陽光発電設備を設置する場合には、農地をはじめとする自然環境の保全に留意しながら進められたいとまとめております。

次に、ナンバー9と10であります、こちら、春日委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「都市近郊型農業の推進」について、経営規模の拡大や、収益性の高い農産物の生産などに加えて、生涯現役で農業を営めるよう、多様な農産物の生産に取り組むための支援を行うほか、道央圏に位置する優位性を生かした取組を検討されたいとまとめております。

次に、ナンバー11であります、こちらは、井上委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「農業経営の安定化」について、農業経営は、担い手不足や物価・燃料費の高騰などにより、厳しい状況にあることから、持続可能な農業となるよう、一層の危機感を持って主体的に取り組まれたいとまとめております。

資料4ページをご覧ください。

次に、ナンバー12であります、こちらは、齋藤委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「地産地消の推進」について、生産者である農業者だけではなく、消費者にとっても地産地消の意識と取組が重要であるため、市民が農業と触れ合う機会の提供をはじめ、生産者と消費者を結び付ける取組を検討されたいとまとめております。

次に、ナンバー13であります、こちらは、小野委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「持続可能な農村環境づくり」について、農業が盛んな江別市において、市民が農業をもっと身近に感じることができ、まちづくりをさらに進めながら、健康や観光などの様々な分野と連携する取組を検討されたいとまとめております。

次に、ナンバー14であります、こちらは、春日委員からいただいたご意見であります。

す。

意見の趣旨は、「持続可能な農村環境づくり」について、デジタル技術を活用したスマート農業は、導入費用が高額で普及が進まない状況にあるが、生産性の向上や省力化のみならず、脱炭素社会の実現にもつながる取組であることから、普及に向けた支援について検討されたいとまとめております。

次に、ナンバー15と16であります。これらは、それぞれ山崎委員、小野委員からいただいたご意見であります。

各委員からの意見の趣旨は、「防災意識の向上」について、日常生活における何気ない行動が、防災や減災につながっていることなど、身近な取組や心掛けなどの情報提供に努めるとともに、誰一人取り残さないよう、あらゆる手段を用いた情報発信に取り組まれないとまとめております。

次に、ナンバー17であります。こちらは、齋藤委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「公共交通ネットワークの最適化と利用促進」について、市民の利便性の向上や企業誘致などにつながることを期待されるため、無人運転や既に実施しているデマンド型交通など、デジタル技術を活用しながら、江別市の特徴を生かした先進的な取組を検討されたいとまとめております。

資料5ページをご覧ください。

次に、ナンバー18と19であります。これらは、それぞれ齋藤委員、小野委員からいただいたご意見であります。

各委員からの意見の趣旨は、「デジタル技術の活用」について、暮らしを豊かにするための取組のほか、江別市の歴史や文化を、デジタル技術を用いて分かりやすく情報発信することにより、観光振興や生涯学習に活用することを検討されたいとまとめております。

次に、ナンバー20から22までであります。これらは、それぞれ春日委員、小野委員、山崎委員からいただいたご意見であります。

各委員からの意見の趣旨は、「デジタル技術の活用」について、どこにいても、効率的で効果的に様々なサービスを利用することができるよう、地域活動をはじめ、行政における各種手続きや、医療分野などにおいても、デジタル技術の活用により、市民の日常生活の利便性が高まる取組を検討されたいとまとめております。

最後に、ナンバー23であります。こちらは、齋藤委員からいただいたご意見であります。

意見の趣旨は、「広報・情報発信の充実」について、情報発信は、あらゆる取組の基本となることから、全ての政策において重要な事項として位置付けられたいとまとめております。

説明は、以上でございます。

(明神部会長)

ただいま、資料2及び3の説明を受けましたが、はじめに、資料2の1ページ、市の確認・検討結果について、委員の皆様から質問などはございませんか。

(井上委員)

ナンバー6について、私の説明不足だったのかもしれませんが、道路のほかにJRの話もしたと思います。前回の専門部会において、江別市は、交通の利便性は既に高いのでアピールした方が良くと話しました。市の検討結果では、江別市の現状を紹介する中で示していくということでしたが、現状に甘んじないで、さらなる利便性の向上を追求してほしいというのが私の意見の趣旨です。具体例として、快速列車、いしかりライナーが廃止になった時に、その影響は少ないというような市の考えが新聞に掲載されていたと記憶していますが、不動産で物件をPRする際は、1分から2分でも早い方が魅力が高まりますし、

快速列車が停まるか否かも、その地域を選択する基準にもなると思います。いしかりライナーが廃止になっても江別市の利便性は変わりませんという意思表示は、決してプラスにはなりませんし、他のライバル地域にも負けてしまうと思います。恵庭市や千歳市方面は快速列車の本数も多く、そういう点で比べると、江別市は利便性が低いという位置付けにもなってしまいますので、さらなる利便性の向上を目指した上で、江別市のPRをしてほしいと思います。

ナンバー5の北海道消防学校の件についても、避難所の指定などで連携しているというのですが、これも市民の皆さんがあまり認識されていないかもしれないので、広報誌や総合計画において、北海道消防学校と連携をしていることや、他の地域にはないような防災訓練が実施できる可能性があることをPRしていく必要があるのではないかと思います。ただ連携しているというだけではなく、今後も活用していきますというような、一歩踏み込んだ意見としていただければ良いと感じました。

(事務局)

ナンバー6のご意見をいただいたところです。これは、今後のまちづくり政策への意見ということで、2ページ以降に記載している意見の一覧に載せることが適切であるかもしれませんので、もう一度確認し、さらに利便性を高める取組について検討されたいというご意見にしたいと思います。

次に、ナンバー5ですが、江別市には、危機対策・防災担当がおりまして、先ほどもご説明しましたが、防災訓練等では特段の連携はしておらず、何か災害等があった際に、指定避難所と物資の拠点として利用することになっています。そのことをPRする機会を常日頃持つことは難しいところではありますが、施設を借りて連携している実績もあり、その点をPRすることは必要だと思っております。総合計画の文中に具体的に記載することは難しいと思いますが、より一層の連携とPRに努めるよう、担当部局に伝えたいと思います。

(明神部会長)

皆様からいただいたご意見が、答申に付記する内容の材料となりますので、発言趣旨が異なっている場合などあれば、ご発言いただきたいと思います。

私からよろしいでしょうか。

1ページに記載されている、野幌森林公園などの魅力をまちづくり政策に反映してはどうかという意見に対して、江別市の現状を紹介する中で示していくとあります。北海道の中でも、唯一の江別市の財産として、野幌森林公園と野幌総合運動公園があると思いますので、もう少し踏み込んで、まちづくり政策などに生かす、市民と一体となって自然を守る、豊かな自然を市民で楽しむ、市を挙げて取り組むようなイベントを開催する、環境教育にも生かしていくなど、施策に積極的に活用していただきたいと思います。

(事務局)

これに関しては、担当部局にも伝えておりまして、環境部門が個別計画を策定している最中でありますので、行政審議会での意見もしっかりと踏まえながら、取り組んでいくように伝えたいと思います。

明神部会長をはじめ、各委員から、江別市には非常に魅力的な地域資源がたくさんあるものの、市民にその良さが十分に伝わっていないこともあるのではないかと意見をいただいておりますことから、総合計画の中でも紹介、PRするとともに、広く市民に利活用してもらう取組を積極的に行う必要があると考えております。また、自然環境に限らず、あらゆる地域資源を積極的に活用することについて、各部局が策定する個別計画や、展開する事業の中で検討するように、庁内の各部局にしっかりと伝えていきたいと考えております。

(明神部会長)

野幌総合運動公園は、全国大会や全道大会をはじめ、各種スポーツ大会の会場になっており、スポーツをしている人たちには非常に知名度が高いです。市民も、広い会場やプール、体育館などを利用していますが、江別市としても、市民運動会やスポーツ大会など、一大イベントを野幌総合運動公園で行って、江別市の目玉にしてはどうでしょうか。第2部会の審議事項である、スポーツに関するまちづくり政策にも関係してくるのかもしれない。

(星委員)

私は、野幌総合運動公園のプールに行くことがあります。水深が深いので、泳げる人しか基本的には利用できませんが、歩くことができる箇所も1レーンあるので利用しています。設備もとてもきれいですし、江別市内の公共プールは、野幌総合運動公園と江別市青年センターしかありませんので、野幌総合運動公園のプールはお勧めです。

(町村委員)

私は、原始林で歩くスキーをすることがあります。江別スキー連盟が歩くスキーの教室を開催しているので、それに数年参加させてもらっています。利用者は冬でもたくさんいます。高齢者が多いですが、比較的若い人もグループで結構来ています。また、歩くスキーばかりではなく、多くの方は徒歩です。鳥の撮影などもしているようです。野幌森林公園は、非常に気持ちの良い場所なので、私も個人的によく利用しています。

(事務局)

私から、町村委員にお聞きしてもよろしいでしょうか。

地域資源の件に関して、この間の日曜日に、えべつ観光協会が主催されたえべつ観光セミナー2023に私も参加させていただき、町村委員がお話しされていて、なるほど思いながら聞いていました。

江別市の地域資源ということで考えると、自然など、いろいろな魅力があると思いますが、町村委員が考える、市外や市民にも誇れる江別市の地域資源はどんなものが挙げられますか。

(町村委員)

江別市観光振興計画では、「食と農」がベースにありますので、やはり「食と農」になると思いますが、先日のえべつ観光セミナー2023では、それだけではなく、様々な観点から発言しても良いということでしたので、いろいろな話をしました。

江別市は札幌市の隣にあるまちで、「食と農」が優位に働く部分が絶対にあるので、その捉え方で良いと思います。ただ、えべつ観光セミナー2023でも話をしましたが、「食と農」は、北海道内の他の自治体、あるいは日本全国で志向している部分であり、競争相手が非常に多く競争が激化している領域であるという気がします。

江別市の地域資源として、すぐ思いつくのは、今更ながらと思うかもしれませんが、やはりレンガがあると思います。レンガと「食と農」を結び付けていくことで、うまく物語を作っていけば、江別市ならではの魅力にできるのではないかと思います。

私は、JR野幌駅の駅前通りで、小さいレストランを経営していますが、そのメニューで、レンガ地の焼き物で作ったポットを使った焼きカレーを提供しています。目に見える単純な連携も、いろいろ積み重なってくると財産になってくるかもしれないので、やはり「食と農」をベースにするにしても、もう一つの切り口がないと、なかなか他の地域との差別化を図ることは難しいのではないかと思います。ただ、道央圏に位置するという、場所の優位性は間違いなくあると思いますので、そこを積極的に生かしていくべきだと思います。

(事務局)

「食と農」は、江別市が誇れる本当にすばらしい地域資源、財産である一方で、今後、次のステップに進むためには、さらなる地域資源の活用と連携が必要というお話を伺いました。

次に、小野委員は、原始林を散策されて、バードウォッチングをされているというお話を前回いただきました。町村委員と同様の質問をしますが、自然以外で、江別市のすばらしさや、誇れる地域資源として、思い浮かぶものは何でしょうか。

(小野秀司委員)

自然以外で言うと、個人的には図書館が好きで、北海道立図書館を利用します。札幌市には、北海道議会図書室があり、そちらでも図書の貸出しを行っていますが、あまり知られていないようです。江別市には北海道立図書館があり、江別市情報図書館もあります。そのほか、大学の図書館をよく利用しています。かなりオープンに利用することができ、犬を飼う時は酪農学園大学の図書館で、飼育に関する調べものをするなど、お世話になりました。そのほか、札幌学院大学の図書館も、たくさん利用させてもらいました。仕事上、新しい分野をまとめて知りたい時には、本を素早く集めることができますし、比較的空いていることも大きなメリットです。

なお、自然のことで言えば、野幌森林公園を歩いていると、瑞穂の池ほど有名ではありませんが、大沢の池があって、徐々に水位が下がっており、結構水鳥が来ていて、野幌総合運動公園側からも行くことができるようになると良いのではないかと思います。前回も話しましたが、北海道にしか生息していないシマエナガも簡単に観ることができます。

(事務局)

確かに、意外と市民に知られていない施設が、北海道立図書館だと思います。また、大学の図書館も積極的に利用されているということで、「知る」ということに関しては、とても恵まれている、特徴のある地域なのかもしれません。

(小野秀司委員)

私は一時期、ニセコ町に関心を持っていたことがあって、その関連で言うと、世界的に有名なリゾート地のスキー場の周辺には、図書館があることが多いそうです。スキーをしに来る観光客も、四六時中スキーをしているわけではなく、天候が悪い時などに図書館を利用するそうです。ニセコ町の方と話をした時に、そういったことを聞いたことがあります。

また、北海道立図書館から酪農学園大学にかけては、非常に良いロケーションで、なおかつ、北海道立図書館の広い前庭は今、積極的にいろいろな形で利用されています。子どもラグビークラブなどで活用する方法は、非常に良い利用方法だと思います。酪農学園大学の看板が設置されている芝生のスペースも、市民が少し休める憩いの場になると良いと思っています。

(事務局)

北海道立図書館の前庭は、観光のイベントでも最近活用されていました。

次に、清水委員にもお聞きしてもよろしいでしょうか。

江別青年会議所として、様々な活動をされていて、去年はSDGsの関係で、市も連携して取組をさせていただいたところがございます。江別青年会議所の中でも、地域資源を活用していろいろなイベントを行われてきたところですが、印象的だったことなどについて、お伺いできますでしょうか。

(清水委員)

江別青年会議所として、皆さんの記憶に残っていれば良いなと思うことは二つありまし

て、一つ目は、私たちの40周年の記念事業として、14年前に野幌森林公園で行った「E B E-1 グランプリ」です。想定以上に多くの来場者のお越しいただいたことで、国道沿いまで車が渋滞してしまい、かなり迷惑をかけてしまいました。ただ、野幌森林公園を使ったお祭りとしては、多分第1号で、江別市のB級グルメを作ろうという機運が高まったイベントでした。二つ目は、平成28年から江別市役所の前で開催した「まるごと江別」で、道央農協の農業祭りと、私たちが行っていたスイーツフェスタを一緒にして「えべつ農業祭り&まるごと江別」を開催したことです。地域の魅力を発信しようという気持ちで、江別市民会館では個別のブースを出店してスイーツを販売し、屋外では店も出して農業祭りを開催しました。個別のブースでは、学生さんや江別市で活動している市民団体の方々に、いろいろ手伝っていただきました。江別市の魅力を結集して開催したイベントですが、コロナ禍の今は、開催できていない状況です。

(事務局)

江別青年会議所の皆様は、私たちも連携させていただくと、とても一生懸命で、熱い思いを持って活動されていることに大変感銘を受けています。市でも、今回の総合計画を策定する際には、公募の若手職員が参加しながら進めてきましたので、今後も様々な場面で一緒に取り組み、また、地域資源もうまく活用しながら、市民、市外の方といろいろと連携をして、情報発信を行っていきたいと考えております。

(明神部会長)

地域資源ということでは、野幌森林公園は、毎年、雪解けの頃にミズバショウが咲くので、春が来ると見に行きます。北海道百年記念塔の方に行くと、ザゼンソウが咲いています。本州ではミズバショウを見に行こうとすると、尾瀬などに出かけないと見ることができませんが、江別市では住宅街のすぐ近くで見ることができるのでうれしいです。季節ごとに花もたくさん咲きますので、広く市民に紹介しても良いのではないかと思います。

(井上委員)

明神部会長からもお話がありましたが、地域資源の観点で言うと、野幌総合運動公園は、小学生や中学生、高校生には知名度が抜群に高いです。全道大会の会場として使われることもあって、憧れの地でもあります。施設も非常に充実していますが、学生時代以後、行くことがないケースが多い状態だと思います。

野球場やサッカー場、テニスコートのほか、プールもあるので、多世代やシニアの大会を市が企画して開催したら、多くの市民の皆さんに、野幌総合運動公園の位置付けを理解していただけるし、地域資源の活用にも結び付くのではないかと思います。

また、先ほど、町村委員からもご意見がありましたが、農業とレンガの結び付きは非常に可能性があると思います。具体例としては、暗渠（あんきょ）です。レンガ産業と農業の結び付きが非常に強い部門だと思います。暗渠が実際に農地に組み込まれている場面を見学するような機会を設けると、多くの皆さんに農業とレンガの結び付きを理解してもらうことができるのではないかと思いますので、そうした、目に触れるような機会を作っていただくのも一つの方法ではないかと思います。

さらに、今はB級グルメブームなので、江別市産の農産物を使った食べ物を開発するのも、レンガ産業と農業の結び付きをイメージする一助になるのではないかと思います。現在、レンガを連想する特産として一番有名なものは「煉化もち」ですが、「煉化もち」に続く、レンガをモチーフにしたご当地グルメはありません。シフォンケーキなどは、見た目が少しレンガに似ているのではないかと思います。シフォンケーキを売りにしている洋菓子屋さんにも市内にあるので、協力を仰いで、江別市産の小麦のほか、落花生なども加えるなどの工夫ができるかもしれません。一つの例ですが、そのようなB級グルメを開発していくのも、農業とレンガ産業の結び付きの一つになるのではないかと感じています。

(明神部会長)

「食と農」を、限定的に捉えるのではなく、広げて考えれば、様々なものが関連し、つながっていくと思います。江別市は焼き物が有名で、私もえべつやきもの市で非常に気に入ったコーヒーカップを買うことができました。農業では、クラインガルテンの話もありましたが、自分たちが農作物を作るという体験や、キャンプでバーベキューをして江別市産の農産物を食べるという体験は、江別市への愛着を高めるきっかけになるとと思います。江別市にも、森林キャンプ場がありますが、市外のキャンプ場に比べると、少し見劣りすると感じることもあるようなので、キャンプはブームでもありますから、もう少し整備に力を入れていただければ良いと思います。

(事務局)

農業に関する発言がありましたので、私から、春日委員にお伺いしてもよろしいでしょうか。

ナンバー9と10について、農業でも担い手不足の課題がありますが、一方で、江別市の農業は人気があるという話を聞いたことがあるのですが、江別市で農家になりたいという方は、あまり多くないのでしょうか。

(春日委員)

札幌市に近いという利便性や、日本でも有数の農場である町村農場があるなど、農業に関してはある程度の知名度があります。また、以前もお話ししましたが、江別市の面積の4割以上が農地です。そのため、江別市に就農したいという話を、行政や別のところを通してお聞きします。ただ、前回の専門部会でもお話をしましたが、相続で譲り受けるという例外はありますが、農地はいわゆる農業者しか買うことができません。そのため、きちんと研修を受けて、研修後に、利用できる農地が江別市にあれば、江別市に就農できますが、なかなか難しいのが実情です。農業公社で研修をしている方々から、我々も希望を聞き取り、研修後に、江別市内の農地で就農できるタイミングを作るように努力をしていますが、残念ながらそうならない時には、千歳市や恵庭市、北広島市を就農地に選ばれることもあります。

近年は、江別市に新規就農者は入っていますし、ここ数年の非常に珍しいケースとして、畜産でも江別市に新規就農した例がありました。そういった意味で、土地の利便性もあって、江別市に就農したいという方はいらっしゃいます。

(事務局)

新規就農するには、タイミングが非常に大きいということでしょうか。

(春日委員)

タイミングは大きいです。研修が終わって、生計維持をしなければならないので、なるべく早く就農させてあげたいのが正直な気持ちですが、うまく農地が見つからず、農業法人に、サラリーマンとして就業するケースもあります。就農を希望する方には、いろいろなタイプの方がいらっしゃって、農業に対していろいろなイメージを持たれています。あまり人と関わらずに仕事ができるという理由から、農業に就きたいという人もいます。ただ、農業こそ非常にコミュニケーションが必要で、観察力も必要ですし、いろいろなことを網羅できる方でないと、なかなか農業者にはなれないものです。社会に疲れたから農業に就きたいということを言われる方も実際にいますが、そういった方には、面接などで農業の実態をお伝えしています。今までは、就農を希望される方の意思を最大限尊重して、極力、受入れてきましたが、そういった方の中には、国からの就農支援金を全部使い切って農業を辞めてしまったり、高額な借金を作ってしまったりすることもありました。そうになると、その方の人生に大きな影響を及ぼしてしまうので、面接で実態をお話しするなどして、就農の手助けをしています。

(事務局)

将来的に見ると、人口減少が一層進展する中で、農業を含むあらゆる分野で人手不足が進み、人手を確保することが難しい時代になりますので、江別市が誇れる農業をしっかりと持続可能なものとしていくためには、やはり人が重要だと感じました。

(春日委員)

結局、新規就農もそうですが、トマト農家を例にすると、トマトの収穫を手伝ってくれる人のほか、選果をしてくれる人も必要となりますが、地方に行くとそのようなお手伝いをしてくれる人がいない状況です。江別市は、農福連携という取組もありますし、大学生の皆さんもいらっしゃるので、インターネットで手伝いを募集すると、人が集まるという、非常に大きな強みがあります。

(明神部会長)

私も、インターンシップで学生を大麻地区にある酪農の牧場に受け入れていただいて、酪農家の実労働を体験してもらいました。スマート酪農が非常に華々しく打ち上げられています。酪農の実態がいかに大変かを経験することで、現場の実態に合ったスマート化を検討することができました。

小・中規模の酪農家は、出荷先や契約先と、乳価と出荷量を決めて、その量を生産することが多いと聞きました。新規就農も、生計を維持するには利益をきちんと出していく必要がありますが、業務フローや業務プロセスを可視化して、ムリ・ムダ・ムラを明らかにして、どう改善していくかが重要になると思います。

私は、大学で勤務する以前は、ITのコンサルタントをしていましたが、DXの前に、現在の業務の可視化をして、改善・改革をどこで、どのようにすべきか見極めることが、DXを進める大前提だと思います。そんなことをできる人材を、大学でも育成することが必要だと考えています。

(事務局)

次に、齋藤委員にお伺いしてもよろしいでしょうか。

前回の専門部会では、農業に関して、いろいろなお話をいただいたところです。

農業を持続可能なものにするためには、人もそうですし、先ほど春日委員からお話いただいた新規に就農するタイミングや、あらゆる技術を積極的に活用して、改善していくことも必要だと思いますが、前回、齋藤委員から伺ったお話の中で、地産地消の観点から、生産者と消費者を結び付ける取組が非常に重要ではないかというご発言がありました。安平町において、農業者も参加するお祭りのお話もいただきましたが、今後、江別市において、地産地消の観点で、生産者と消費者をつないで、より一層、農業のストーリーを知る人を増やしていくために、今後の農業に期待するところや、消費者の立場として望む取組などはありますか。

(齋藤委員)

私は、農業に関する専門家ではありませんので、こういう取組が効果的であると言えるものはなく、あったら良いなという程度のことしか言えませんが、土に触れることや、自ら野菜を採るといった体験をすることが一番ではないかと思います。

酪農で、乳しぼり体験ができると、子どもも、「このように牛乳が出るんだ」、「牛乳が生産されるんだ」と分かると思います。ただ、生き物や食べ物ですので、そう簡単にはいかないことはもちろんあると思いますが、何か体験できると、理解が一步深まると思います。清水委員からお話があった「まるごと江別」に、私も子どもを連れて参加しました。あの時、小学校の何年生かのクラスが農家の野菜販売の手伝いをしていました。子どもたちにとって良い経験だと思いましたので、いろいろな観点から体験ができるのが良いと思います。

(川上部長)

私は、以前、農業委員会事務局を所管していたことがあります。

その当時、農業は非常に重要な産業ですが、就業してすぐに生計を立てていかなければなりませんので、新規就業は難しい業種だと思いました。また、農業公社で就農支援をしていただいています。行政も参画して、就業支援体制を強化していかなければならないと思いました。

それから、町村委員からもお話がありましたが、この近隣でも、農業地帯といわれるところや、農業が主産業というまちもありますので、農業で特長を出すことは難しさもあろうかと思えます。しかし、農業における江別市の強みがあると思えますので、もう少し深掘りした中で、少しずつでも浸透させていくことが必要だと考えます。

また、現在は企画政策部において、デジタル化を推進する部門を所管しています。デジタル化はあくまでも、デジタル技術を活用して、市民の皆さんの利便性を向上させ、住みやすいまちをつくっていくことが目的であり、デジタル化を進めること自体が目的ではありません。農業分野においても、これからデジタル技術を活用していく部分があると思えます。ドローンの利用など、市内の農業者や道央農協でも取り組んでいると思えます。酪農学園大学でも先進的に取り組まれている先生がいらっしゃいました。北海道情報大学でもその分野を勉強されている先生はいらっしゃると思えますので、農業分野における新たなデジタル化の取組を進めていただきたいと思いますと思っていますところです。

(事務局)

根幹には人口減少があり、人口減少は経済の縮小を伴うので、あらゆる技術やデジタル技術などを活用しながら、様々な分野が連携し、まちづくりを行っていく必要があると思えます。今回の総合計画を策定するにあたり、市民参加の取組の中で、江別市は本当に住みやすく、居心地が良く、ずっと住み続けたいという声を多くの方からいただきました。また、江別市は変わらないでほしいという声もたくさんありました。ただ、人口減少や少子高齢化は一層進んでいきますので、まちが変わらずにあり続けるためには、市役所が変わらなければならないと考え、次期の総合計画のまちづくりの基本理念に「新しい時代に挑戦するまち」を掲げたところです。

これから、まちづくりを進めていくためには、人が非常に重要です。農業や商工業も含めて、江別市が誇れる産業をしっかりと守り続けていくための皆さんの支えや、つながりが非常に重要だということを再認識しました。

(齋藤委員)

食という意味で、江別市民に何回も食べに来てほしいことはもちろんですが、市外の人に、どうしたら何度も江別市に来てもらえるかを考えることも大事だと思います。先ほども、江別市には、北海道立図書館、セラミックアートセンター、北海道埋蔵文化財センター、野幌総合運動公園など、いろいろな施設があるという話がありましたが、1回だけ来て終わってしまうのではなく、何度も足を運んでもらうようにすることです。例えば、セラミックアートセンターは美術館としての要素がありますが、常設展示以外にも、いろいろ展示すれば、江別市に来たら何か食べて帰ろうかというように、何回も観に来てもらえるのではないかと思います。そういう意味では、江別蔦屋書店がいろいろなイベントを開催しており、市外の方も来ていますので、民間の力もうまく活用しながら進めてはどうかと思えます。

農業の話で言うと、春に植えるお手伝いなどをイベントとして実施したときに、秋にどんなものが収穫できるか楽しみになるので、収穫されたものが料理で出されるイベントがあれば、また食べに来てようと、何回も足を運んでくれるのではないかと思います。

(清水委員)

私は、江別市生まれではなく、転勤族の家庭で育ったため、函館市や帯広市に住んでいました。今は、江別青年会議所に入って、北海道だけではなく日本中を走り回っていますが、いろいろな市町村を見て、江別市の強み、江別市にしかないものを考えると、レンガではないかと思うのです。それ以外にもう一つあるとしたら、この小さいまちに大学が四つあることが強みだと思っています。農業だけを推しても、隣の当別町も農業が盛んですし、空知管内は全域で農業が盛んです。岩見沢市もスマート農業を積極的に行っています。道央農協は千歳市、恵庭市、北広島市も含めた広域農協ですし、十勝はブランドとして農業を推しています。そういう中で、江別市の強みはレンガと学生だと思うのです。そこに「食と農」というスパイスを加えて、大学生が農業体験をすとか、これに小学生や中学生も加われば、江別市にしかできない取組になると思います。そこでレンガを使うと良いかもしれません。江別市にしかないもの、「食と農」、大学の学生食堂なども含めて、上手く組み合わせると、江別市にしかないものが生まれるのではないかと、ずっと思っています。そういうことができれば、江別市のことを好きになる人が増えるのではないかと思います。

また、20代の学生さんたちと話をすると、江別市は良いまちだ、江別市の大学で良かったという話を聞きますが、30代の江別市民、私たちの年代ですが、江別市が好きな人はそう多くはいないのです。何か買物をしようと思ったら札幌市に行くし、観光に行こうと思ったら江別市から出ていくのです。土日などの休日の過ごし方もそうです。しかし、自分の父は江別市の出身で、江別市には良いところがたくさんあると言います。原始林もそうですが、そういうところに若い世代が気づいていないと思います。そういう感性が、まだ若いからなのかもしれませんので、若い世代が江別市を好きになるための何か仕掛けができないかと思っています。今は、若い世代が江別市を選んでたくさん転入していますが、江別市の魅力がなくなったら、転入が一気に減り、江別市の人口も一層減少すると思いますので、何とかしなければいけないと思います。江別市の魅力は、住みやすいだけではなく、他にも何かあると良いなと思いつつながら、皆さんの意見を聞いていました。

(事務局)

今のお話は、町村委員のご意見と関係してくるかもしれません。「食と農」で江別市の観光をPRしてきましたが、次のステップに進む段階にあるのではないかというお話もありました。レンガは江別市が誇れるもので、大学が四つあることも非常に特徴的だと思っています。12万人の人口のうち、大学生が1万人弱いるのは、特筆すべき状況です。また、若さあふれる、活気あふれるまちになる可能性もまだ残されていると思いますので、そういったところをしっかりと連携させながら、まちづくりを行っていくことは非常に重要だと思いますし、これからの時代は必要な取組になっていくと思っています。

また、札幌市が隣であることは、江別市の強みでもあり弱みでもあると、多くの方から意見をいただいています。江別市は住みやすいだけではなく、江別市の魅力をしっかりと伝えながら、30代など若い世代にも江別市を好きになってもらえるような取組が必要だと感じました。

(春日委員)

先ほど言われたとおり、私が持つ江別市のイメージは、今も昔も「文教都市」です。それぐらい大学も学校も多いです。北海道消防学校もそうですし、JAカレッジもそうです。様々な教育施設が揃っていると思います。ただ、残念ながら、大学生の多くは大麻地区におり、野幌地区と江別地区はあまりかわりがないのではないかと思います。

確かに、北海道全体が、「食と農」が特徴なわけですから、「食と農」だけではなく、先ほど話があった江別市の特産であるレンガを生かしたり、文教都市の部分である大学生と包括的に連携して取り組んだりすることが、もしかしたら、江別市のイノベーションを

起こす一番の近道なのではないかと感じるところです。

(事務局)

大学としっかり連携していくことは非常に重要です。ただ、大学を卒業すると転出してしまいうことが多という問題もあります。せっかく江別市に来てもらったので、江別市内で就職してもらって、江別市に住み続けていただく流れをつくることができれば一番良いと思いますが、なかなか実態としてはそのようになっていません。一番転出が多いのは、大学を卒業した年代であり、江別市から札幌市に通勤してもらっても良いので、大学卒業後の年代の転出を抑えて、江別市に住み続けていただく流れをうまくつくっていくことができれば、もっと良いまちに、活気があるまちになっていく可能性があると思います。

(明神部会長)

北海道情報大学の学生も、卒業すると、多くがIT企業のあるところに転出します。新しいビジネスを生み出すために、アントレプレナーシップセンター（学生や研究者による起業の支援・育成を目的とする機関）やフィンランドのオウル大学のように大学の研究室と連携してゲームを作る取組など、江別市にそういったIT企業や、若い世代が喜んで就業する雇用があれば良いのですが、それがないために江別市から転出してしまいます。IT先進国のエストニアも、ブロックチェーン（デジタルセキュリティ技術）を使って、伝統的な企業を生まれ変わらせる取組をしており、日本からもコンサルタントが行っています。ITを中小企業の製造過程でどれだけ使えるか分かりませんが、販売する時に、既存の流通方法やルートにデジタルをプラスアルファすることができるコネクタ人材を組織化してDXを進めることができると良いのではないのでしょうか。中小企業の経営者の中には、「ITはよく分からないから専門家に任せておこう」という方がいます。中小企業、あるいは農業の仕事を理解した上で、どこにコストがかかっているかなどを確認して、コネクタ人材を組織化して支援していく必要があります。大学の卒業生がそういう仕事に就けるように、ゲームやeスポーツという新しい分野もありますが、伝統的な地場産業を新しく生まれ変わらせる組織体を作っても良いのではないかと考えています。

(町村委員)

私は、デジタル技術に詳しいわけではありませんが、最近の広報えべつで、江別市でも健康都市の推進とデジタル技術の活用を掛け合わせて、スマートウォッチを配布する予定という記事を読みました。国のデジタル田園都市国家構想の事業で進めると聞いていますが、最近、石狩管内でも行政サービスをデジタル化していくという記事を新聞で読みました。行政から住民へのアクセスだけではなく、市民が行う行政手続きも窓口だけではなくインターネット環境も利用しながら推進していくことを、全市的に取り組んでいく方針を出したという記事でした。

私の個人的な意見ですが、江別市もデジタル化を進めるのであれば、行政手続きのデジタル化も推進していくべきなのではないかと思いました。人口12万人は、なかなかの規模です。日本中で高齢化が進んで、デジタルが不得手な方々もいらっしゃる状況ではありますが、デジタルをうまく使いながら、効率的に行政サービスを行っていくことについても、日本の代表的な先進都市になるぐらいに徹底的に取り組んでほしいと思います。

総合計画は大きな計画ですので、大学の先生や各産業界、市民の代表の方々を交えて、いろいろと意見交換をしながら進めていくことは重要な作業ですが、同時に、具体的なテーマに関して、何か「これをやるぞ」、「これをやってみたい」という、行政としての意志、あるいは市長の意志というものを示して、それに対して、商工会議所や道央農協、四つの大学などと意見交換をして、方針を固めていくことも大事ではないでしょうか。各種団体や関係機関、大学等が一丸となって、「やっていくぞ」という機運を、策定の時点から作っていく試みも、ぜひ江別市で行ってはどうかと思います。その結果、もしかしたら、新しい事業の芽が出てきて、学生が残るまちになっていくかもしれませんし、新しい企業

が生まれたり、新たに人が入ってきたりすることにつながるのではないかという気がします。

全国で進んでいるデジタル田園都市国家構想は、国主導によるものかもしれませんが、その構想に乗っていこうとした時に、「何をやっていこうか」と考える時点から、いろいろな人の意見を聞きながら作っていくことをされてはどうかと思います。

(川上部長)

今ほどのお話について、今後、考えていかなければならない部分として、胸にしっかり刻んでおきたいと思います。現在、デジタル田園都市国家構想の事業と並行しながら、行政のデジタル化、あわせてまちづくりのデジタル化を含めた委員会を作っておりまして、明神部会長に委員長を務めていただいております。市民の皆さんの利便性を高めるために、デジタル技術をどういう形で利用していくかを検討していく委員会であります。その中で、今ほど町村委員からいただいたお話を議論しているところです。今年度は、まだ結果が見えない部分がありますが、次年度以降、しっかり市民の皆さんにお示しした中で、どういう分野で、江別市としてデジタル化を進めていくのか、方向性を示していくところでございます。今後、皆さんの意見を聞きながら進めていくことを考えておりますので、是非、よろしく願いいたします。

(明神部会長)

昨年、当時のデジタル大臣であった牧島かれん大臣が本学にいらっしゃって開催したタウンミーティングで、国が補助金を出す間は、自治体を含めて多くの主体が動くが、補助金が終了した後、その活動が止まってしまうことが一番問題であるという話がありました。市民のためのデジタル化ですので、その地域の人たちが参画して動き始めるために、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、市民の意見を集約する検討委員会を開催いたします。国から行政に、取り組むべきと示されたメニューが様々あるのですが、それに取り組んだ結果、江別市のデジタル化がどのように推進されるのかが見えなかったため、この構想で江別市は何を目指しているのかをはっきりさせなければならないということで、住民目線で、住民の幸せや利便性を追求していただきたいという話をしています。

また、デジタル化やITは、何のために進めるのか。住民の幸せを目的とするものであれば、住民の心、幸せとはどういう姿なのか、ウェルビーイングとよく言われますが、それをしっかりと捉えた上で、まちづくりを進めることが重要です。一方で、スマート農業やスマート酪農は、今一番苦労しているところや、資本や労力が無駄になっているところを可視化して、どこに着手していくか、仕事ありきでITとつないでいく進め方をします。IT化自体が目的となってしまうように、何のために行うのかを把握した上でデジタル化を推進していくことが大切です。そういった人材となる学生を育てていきたいと思っています。

他に、委員からご意見はございませんか。

(なし)

(明神部会長)

それでは、皆様からいただいたご意見を踏まえまして、次回の全体会において、第1部会の審議結果を報告したいと思います。

なお、審議結果の報告であります。皆様からいただいたご意見を踏まえて作成することとなりますが、作成については、部会長に一任いただきたいと思います。皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、第1部会では、2回にわたり、「まちづくり政策」の案に対する審議を行ってまいりましたが、専門部会での審議は今回で終わることとし、当初の予定どおり、次回から全体会での審議になろうかと思えます。

次回以降の流れについて、事務局から想定があれば、ご説明をお願いします。

(事務局)

次回以降の流れでございしますが、今回は、後程もご説明いたしますが、3月に全体会を開催したいと考えております。全体会では、今、明神部会長がお話しされましたとおり、各部会での審議結果についてそれぞれご報告をいただいて、それに対して、皆様にまたご意見をいただきたいと考えております。

皆様ご承知のとおり、4月には統一地方選挙がございまして、この度、市長が代わるということが確実でありますので、総合計画を調整する必要がある場合は、4月以降、必要な調整を加えまして、皆様にお諮りすることになろうかと存じます。

(明神部会長)

ただいまの説明について、質問などはございしますか。

(なし)

それでは、以上で、3の審議事項を終わります。

4 その他

(1) 次回の日程について

(明神部会長)

次に、次第4のその他の(1)、次回の日程について事務局から説明願います。

(事務局)

次回から、全体会での審議となります。

次回の第5回目となる行政審議会では、専門部会において審議いただいた内容について、第1部会と第2部会の部会長から、それぞれご報告いただいた後、専門部会でのご意見を反映した、まちづくり政策の案をご確認いただくほか、これまでの、「えべつまちづくり未来構想」部分の答申について協議する予定でございします。

また、次回の開催日時であります。会場の都合から、第5回の行政審議会は、3月28日、火曜日の開催にさせていただきたいと存じます。

後日、改めて開催のご案内を差し上げますので、よろしく願いいたします。

(明神部会長)

次回の行政審議会は、3月28日の火曜日に開催する予定とのこと。

ただいまの説明について、質問などはございしますか。

(なし)

(2) その他

(明神部会長)

次に、その他の(2)について、委員の皆様から何かありませんか。

(なし)

そのほか、事務局から何かありますか。

(なし)

5 閉会

(明神部会長)

本日予定していた議事は、全て終了いたしました。

以上をもちまして、第2回江別市行政審議会専門部会第1部会を閉会いたします。